

令和 6 年度 白鳩チルドレンセンター南丘事業報告

1. 概要

①運営方針

- 本年度も全年齢で定員を維持することができました。しかし、豊中市では待機児童解消の受け皿となる小規模園などを急激に増やしたことで、乳児に欠員が出ている園が増えています。確実に園児を確保するために、乳児保育を基本とした丁寧な保育の継続と、魅力ある保育内容、地域に根差した園運営を行うと共に、地域の多くの人に園を知ってもらうための情報発信を進めます。
- 職員不足により、地域交流や出張保育などが、予定よりも少ない実施となっていました。次年度は地域担当職員を配置した上で、地域とのコミュニケーションを密にしながら、積極的に地域交流を実施し地域貢献へと繋げていきます。
- 今年度は、退職者 4 名、産休・育休取得者 3 名となりました。次年度に向け、新卒者 1 名・既卒者 3 名並びにパート職員・派遣職員 3 名の確保はできましたが、急な職員の退職など様々なことを想定し、機会があるごとに職員獲得に向けての対応を継続しながら職員の採用を行っていきます。
- 定期的に不適切保育に関わる自己点検を実施し、不適切保育に関する認識の共有を行うことができました。今後も不適切保育を生じさせないための、保育者の資質や専門性の深化と職場環境の整備などに取り組みます。
- 乳児用小規模園庭改修工事、大型遊具(ジャングラミング)の入替を実施しました。次年度は園舎本体の改修と、園庭・プールのサンシェード設置工事を計画的に進めてまいります。

②定 員 172 名 (1 号認定児 15 名 2 号認定児 90 名 3 号認定児 67 名)

在籍園児数：1 号認定児 15 名 2 号認定児 105 名 3 号認定児 62 名 合計 182 名

③事業日数 294 日 (日曜・祝日及び 12/29～1/3 は休園)

④開園時間 平日・土曜 7：00～19：00

⑤保育時間

★2 号・3 号認定児

平日

土曜

標準時間保育	7：00～18：00	標準時間保育	7：00～18：00
短時間保育	9：00～17：00	短時間保育	9：00～17：00
延長保育	18：00～19：00	延長保育	18：00～19：00

★1号認定児

平日

早朝保育 7:00～9:00

通常保育 9:00～14:00

預かり保育 14:00～19:00

⑥職員数

園長1名、主幹保育教諭2名、保育教諭27名（うち非常勤保育教諭4名）、
保育士1名（非常勤保育士）看護師1名、派遣職員6名、保育補助1名、園務員1名、
給食委託事業者からの栄養士1名、調理員3名、学校医1名、学校歯科医1名、
学校眼科医1名、学校耳鼻咽喉科医1名、薬剤師1名（年間6回環境衛生検査）

2. 教育・保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長する事が望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス編成及び職員配置

0歳児	ひよこ組	12名	保育教諭	4名
1歳児	りす組	20名	保育教諭	4名
2歳児	うさぎ組	30名	保育教諭	5名
3歳児	くま組	40名	保育教諭	3名（1号認定4名 2号認定35名）

4 歳児 ぞう組	42 名	保育教諭	5 名 (1 号認定 7 名 2 号認定 35 名)
			(うち障害児加配保育教諭 3 名)
5 歳児 きりん組	39 名	保育教諭	3 名 (1 号認定 4 名 2 号認定 35 名)
			(うち障害加配保育教諭 1 名)
合計園児数	182 名	保育教諭	24 名
一時保育担当保育教諭		1 名	
預かり保育担当保育教諭		1 名、	
地域子育て担当保育教諭		2 名 (うちパート職員 1 名)	
朝夕延長保育担当教諭		2 名	

⑤教育・保育内容

- 保育者自身でチェックリストを作成したことで、自分達の保育の見直しとなり、学びに繋がりました。今はまだ作成して間もないこともあり活用できていますが、今後は作成したチェックリストを継続して活用していくことが課題です。
- 保育者が必要以上に援助をせず、待つことを大切にした保育を進めるため、職員間での共通理解と振り返りを進めましたが、必要以上に手を出す場面が多いのが現状です。手も口も出ることが自園の大きな課題です。意識して減らすことを徹底させます。
- 子どもの遊びを遮ることなく、子どもがじっくりと遊び込めるように、保育者自身の声を小さくしたり、子どもとの距離感や関わりを意識しましたが、保育者の中には、すぐに大きな声で指示をしてしまい、その影響で子どもも声が大きく、落ち着かないクラスがありました。今後も改善に向けて全職員で確認を行います。
- 朝の意味ある運動や、安田式遊具を使った運動など全身を使った運動遊びを積極的に楽しみましたが、今年の夏は命にかかわる暑さとなり、園庭に出て遊ぶことが著しく減り対策が必要だと感じました。次年度は園庭にサンシェードを設置することで暑さ対策を行います。
- 成果や結果にとらわれず、子ども自身が「楽しい」「やってみたい」と思える活動を大切にしましたが、個々の保育者により「楽しい」の価値観が違ったり、一緒に楽しむことが苦手な保育者がいるなど難しさを痛感しました。引き続き、保育者自身が楽しいと感ずることのできる体験を増やすなど工夫していきます。
- 「おはようございます」「ありがとう」「いただきます」などの基本的な挨拶が習慣づくように、保育者が手本となり挨拶する姿を見せながら、人との関わり方を伝えてきたことで、自分から気持ちのよい挨拶をすることができる子どもが増えてきました。今後も継続して伝え続けていきます。
- 「ちきゅうフレンズ」の教材を使って SDGS の取り組みを進めました。この取り組みを通して、子ども達が SDGS に興味を持ち、実際の生活の中で自分達ができることを考え取り組めたことが大きな成果です。

⑥家庭との連携

- 子どもの姿や保育の内容について、“ドキュメンテーション”や乳児連絡アプリを用いて、子どもの成長を伝えることができました。しかし、文章を書くことが苦手な保育者は先輩の添削が必要な場合も多く、文章力を高めることが大きな課題です。
- 保護者に向けて、おたよりや新入園児説明会、クラス懇談会の場合などで、教育・保育理念、方針、目標などについて丁寧に説明を行うことができました。
- クラス懇談会（年2回）や個人懇談（年1回）、就学前個人懇談、保育参観、保育参加（各年1回）を行い、具体的な教育・保育の取り組みについて知らせると共に、保護者との信頼関係を深め連携を図りました。
- 園長、主幹保育教諭、担任が保護者の悩みに耳を傾けたり、小さな変化にも気づき、早い段階での保護者支援に努めました。内容は子どものことにとどまらず、答えがほしいのではなく、悩みや話をきいてほしい保護者が多いと感じました。
- 池田こども家庭センターが大阪府箕面子ども家庭センターに移転しましたが、次年度からは豊中市単独運営となり、豊中市はぐくみセンター（こども家庭センター）の運営が開始されます。今後は豊中市はぐくみセンターとの連携を密に取り、要保護対象園児の個別対応を行っていきます。
- 園長、主幹保育教諭が窓口となり、転園後の園児と保護者や卒園児とその保護者への支援を継続して行いました。今年度は1名の相談を受け付けました。

⑦人材育成

- 積極的に本園での実習や研修に参加し、学ぶ機会を大切にしました。研修で学んだことは、職員会議の場などで研修報告を行い、保育者間で共通理解を図りました。すぐに学びが全員に伝わることは難しいですが、1つのクラスが変化し、その変化が他クラスや保育者に響き、刺激となるように今後も取り組みを大切にしていきます。
- 園内外の研修会に積極的に参加し、専門知識を向上させ保育者のやりがいを育むと共に、保育の質の向上に努めました。保育者が生涯働きたいと思うことができる魅力ある職場作りをこれからも推進していきます。
- 様々な場面で職員同士のコミュニケーションを図りながら、仕事へのモチベーションを向上させることに繋がるように意識しました。しかし、コミュニケーションをとることが苦手な保育者が益々増えてきているように感じます。苦手意識を克服できるような経験を重ねていきたいと思えます。
- 新任職員が安心して仕事を覚え、離職率を減らす職場作りのために、「1日の保育の流れ」「チェックリスト」を使い、新任職員に丁寧な指導を行いました。指導を行うことで、新任職員よりも指導する側の保育者にとって大きな学びとなりました。

⑧地域の実態に対応した事業

1. 地域子育て支援事業

- 地域の親子10組を対象に「いちごサークル」を実施しました。親子で一緒に楽しめるプログラムを計画し、親子の関わり大切さや、育児や子育てに関する情報を伝えました。参加した保護者の方からは好評をいただくことができました。
- 園長、主幹保育教諭、地域貢献支援員（スマイルサポーター）を中心に、育児相談や情報の提供を行いました。主に園庭開放の際に相談を受けることが多く、飛び込みでの相談はありませんでした。相談のためだけに来園することは、保護者にとってハードルが高いのかもしれません。園側から地域へ向かう手立てを考えていきたいと思っています。
- 園庭開放、プール開放（3回）を実施しました。園の掲示板や豊中市のホームページなどを使って各イベントについての情報発信を行い、参加を呼び掛けましたが、暑さが原因となつてか、園庭開放、プール開放共に昨年に比べ利用者が減りました。次年度は、園の暑さ対策についても発信し参加者を募ります。
- 校区福祉委員会主催の子育てサロン“ももちゃん”の出張保育（年3回）に出向き、地域の民生児童委員の方と一緒に活動を行いました。

2. その他の事業

- 豊中市内各17校区別に保幼小連絡会を行い、教職員が共に学ぶ中で情報の共有を行いました。自園は南丘・東泉丘小学校区の2つの連絡会に参加し、意見の交換を行いました。また、夏は近隣の東豊中幼稚園で公開保育を実施し、保幼小の職員が集まり共に学ぶ機会を持つことができました。
- 年長児はそれぞれが入学する予定の小学校に出掛け、1年生との交流会に参加しました。校内見学や授業への参加を体験することで、小学校への期待を高め、小学校へ入学するイメージを持つことができました。
- インターンシップ、ボランティア、学生アルバイト、中学校の地域体験学習「CUL」、保育士養成校の実習生受け入れを積極的に行い、地域や行政、養成校との連携を深めました。今年度は、学生アルバイトから1名の新卒採用へと就職に繋げることができました。今後も積極的に受け入れを行います。
- 地域福祉ネットワークや小学校区連絡会に参加し、北東部の福祉に携わる施設や団体、また民生児童委員と連携を取り、地域の子育てについて情報交換を行いました。今年度は近隣の図書館との連携が進み、保育の中で図書館を利用する機会を多く持つことができました。

⑨苦情処理

- 事務所に「意見箱」を設置し、保護者からの意見、要望を集約しました。意見、要

望には概ね24時間以内に対応し、掲示板へ回答書を貼り出し、協議中のものについては随時経過報告を行いました。今年度は1件の匿名での投書があり対応を行いました。

- 苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として苦情解決に努めると共に、第三者委員2名の設置を行いました。今年度は苦情はありませんでした。
- 苦情や意見は真摯に受け止め、「園内における問題点（苦情処理）事例と経過」にまとめ迅速な対応を行いました。園全体に係る内容は、保護者に速やかに情報を開示するため、みなみおかだより、掲示板への貼り出しなどで発信しました。

⑩リスクマネジメント

- 近隣地域では様々な感染症が流行したため、感染症予防のために、手洗い、うがい、換気、湿度調整などを徹底し、保護者への情報発信と啓発を行いました。その結果、園では感染症の大きな流行は起こりませんでした。
- 危機管理委員会が中心となりヒヤリハットの取り組みを進めました。ヒヤリハットが怪我や事故防止に繋がり有効活用できるように、職員間で話し合う機会を持つことができました。
- 地震などの災害に備え、緊急時の連絡手段を整備することや、備蓄品や防災マニュアルの見直しと確認を行い、職員間で共通認識しました。また職員研修を行い、実際に災害時の映像を見ながら全職員がBCPについて学ぶ時間を作りました。
- 学校安全計画を策定し、職員間で確認を行いました。
- 災害発生時の対応として、緊急時の連絡カード、園児引渡し票を必要な時にすぐ使えるように整備しました。保護者には改めて対応についての説明を行い災害時に備えることができました。次年度は2次避難場所について、より安全な避難経路を確保するための再検討が必要と考え、早期に検討を行い保護者へも通知します。
- 看護師が中心となり、感染症が発生した場合の対策方法や、SIDS対応、心肺蘇生法（AEDの使い方）の研修を行い、適切な対応ができるように学びを深めました。新しい職員も多いため、今後も繰り返し研修を行っていきます。
- 食中毒やアレルギーマニュアルを全職員で確認し、共通理解を図りました。また、食物アレルギーによる発作が起こった時の緊急薬（エピペン）について、全職員で使用方法について練習しました。（今年度エピペンの預かりなし）
- 豊中消防署、豊中警察と連携しながら、総合避難訓練や救命救急講習、交通安全指導、不審者対応講習を行いました。

⑪物品購入並びに補修費支出予定

- ・大型遊具（ジャングラミング）新設（エール株式会社）・・・・・・・・・¥4,785,000
- ・乳児用園庭修理（ホーム・デコ社）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥1,568,600